

# 地域（磐田市）小規模事業者の動向

平成29年8月

## 【調査の概要】

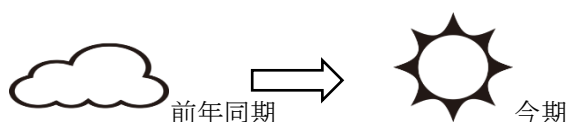
- 1、調査目的・・・磐田市商工会が小規模事業者の持続的発展を支援するために、当会から見た地域の景況並びに経営課題を把握する。
- 2、調査対象・・・当会の会員企業44社  
業種別内訳は、地区内商工業者の構成比率を考慮して、建設業11社、製造業18社（輸送関連12社、その他6社）、小売業5社、飲食業4社、サービス業6社とした。
- 3、調査方法・・・当会の経営指導員による面接聴取によるアンケート調査
- 4、調査内容・・・対前年同月との比較  
項目：売上高の増減、仕入単価の変動、利益の増減、資金繰りの変化、人材の充足度
- 5、分析方法・・・各項目について、プラス傾向（増加、上昇、好転、過剰）から、マイナス傾向（減少、低下、悪化、不足）の構成比を差し引いた数値（判断指数）・DIをもとに分析した。

（注）地域金融機関の景況調査（静岡県西部地域しんきん経済研究所）の調査結果も活用し地域の動向を把握することとした。

## 【磐田地区製造業の状況】

<磐田地区製造業の景況感>

製造業は総じて良い水準にある。特に輸送関連製造業では仕入価格の上昇はあるものの、増収、増益であり好調である。



### ●売上額の動向

売上額DI（増加－減少）は、当会調査では製造業全体は22.2であった。（輸送関連製造業では33.3、その他製造業では0.0）。前年同期比では22.2%の改善となっている。静岡県西部地域しんきん経済研究所（以下では、しんきん経済研究所と略称する）による調査では、製造業全体で1.1であった。前年同期比では17.7%の改善となっている。

### ●仕入単価の動向

仕入単価DI（上昇－下降）は、当会調査では製造業全体は27.8であった。（輸送関連製造業では、は33.3、その他製造業では16.7）。輸送関連製造業の材料価格の上昇が顕著である。前年同期比では、ほぼ同じ値である。しんきん経済研究所では製造業全体で19.3であった。前年同期比では20.4%の悪化となっている。

### ●利益の動向

利益D I（増加－減少）は、当会調査では製造業全体は11.1であった。（輸送関連製造業では、25.0、その他製造業では－16.7）。輸送関連製造業の増益が顕著である。前年同期比では11.1㊦の改善となっている。

しんきん経済研究所では製造業全体で－2.5であった。前年同期比では14.5㊦の改善となっている。

### ●資金繰りの動向

資金繰りD I（好転－悪化）は、当会調査では製造業全体で－5.6であった。（輸送関連製造業では、8.3、その他製造業では－33.3）。輸送関連製造業の好転が大きい。

しんきん経済研究所では製造業全体で－2.2であった。前年同期比では7.6㊦の改善となっている。

### ●人手の動向

人手D I（過剰－不足）は、当会調査では製造業全体で－16.7であった。（輸送関連製造業とその他製造業では、共に－16.7であった）。少し人手不足の状況にある。

しんきん経済研究所では製造業全体で－24.5であった。前年同期比では16.1㊦の悪化（不足）となっている。

### ●調査員コメント

- ・経営課題は人員不足。人材育成と従業員の技術向上である。（自動車部品）
- ・後継者の努力で得意先が徐々に増加している。（自動車部品）
- ・2年前から営業活動を開始し、新規取引先を増加させている。（自動車部品）
- ・インターネット活用による販路拡大を図っている。（自動車部品）
- ・展示会への出展や商品開発による売上拡大を図っている。（食品製造）
- ・商工会に期待すること

補助金等の情報をタイムリーに提供してほしい。（自動車部品）

地域に密着したイベントにも力を入れてほしい。（機械）

取引先の紹介・マッチングをしてほしい。（機械）

融資、税務の情報を提供してほしい。（自動車部品）

## 【建設業の状況】

<磐田地区建設業の景況感>

売上高は増加、材料価格が上昇、利益はやや増加という状況にあり、やや好転している。



### ●売上額の動向

売上額D I（増加－減少）は、当会調査では36.4であった。前年同期比では86.4㊦の大幅な改善となっている。

しんきん経済研究所では3.2であった。前年同期比では32.9㊦の改善となっている。

いずれの調査でも売上高の増加感が強い。

#### ●仕入単価の動向

仕入単価D I（上昇－下降）は、当会調査では54.5であった。前年同期比では37.8%の悪化となっている。仕入価格の上昇感は強い。

しんきん経済研究所では19.4であった。前年同期比では0.6%の悪化となっている。

#### ●利益の動向

利益D I（増加－減少）は、当会調査では－9.1であった。前年同期比では24.2%の改善となっている。

しんきん経済研究所では－8.1であった。前年同期比では12.2%の改善となっている。

いずれの調査でも利益の増加感がある。

#### ●資金繰りの動向

資金繰りD I（好転－悪化）は、当会調査では9.1であった。前年同期比では25.8%の改善となっている。

しんきん経済研究所では－8.1であった。前年同期比では9.1%の改善となっている。

#### ●人手の動向

人手D I（過剰－不足）は、当会調査では－18.2であった。前年同期比では9.9%の悪化（人手不足）となっている。人材が少し不足している。

しんきん経済研究所では－14.5であった。前年同期比では4.5%の改善となっている。

#### ●調査員コメント

- ・課題は現場毎の原価管理が甘いことである。
- ・従業員一人一人に目標設定を行わせ、常に現場管理をすることで工期を守るようにしている。
- ・仕事を任せることにより達成感が感じられるようにして、従業員のやる気を高めている。
- ・リフォーム事業も強化して経営の安定化を図りたい。
- ・商工会に期待すること

青年部活動の活発化。

仕事の情報を提供してほしい。マッチング機会を提供してほしい。

商工会員間の交流を設けて受注機会をつくってほしい。

異業種交流会の開催。

先進地の視察。

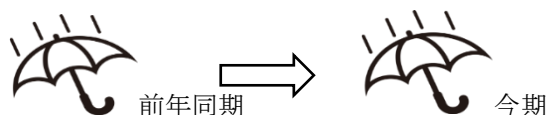
補助金、小規模共済、退職金共済などの情報を提供してほしい。

建設業許可申請代行、労働保険事務委託

## 【小売業の状況】

<磐田地区小売業の景況感>

売上高の減少、仕入価格の上昇、利益の減少という状況にあり、厳しい景況にある。



#### ●売上額の動向

売上額D I（増加－減少）は、当会調査では－80.0であった。前年同期比では30.0%の悪化となっている。

しんきん経済研究所では－22.6であった。前年同期比では1.9%の小幅な改善となっている。売上高が減少と捉えている会社が多い。

#### ●仕入単価の動向

仕入単価D I（上昇－下降）は、当会調査では0.0であった。前年同期比では30.0%の改善となっている。

しんきん経済研究所では20.8であった。前年同期比では15.1%の悪化となっている。

#### ●利益の動向

利益D I（増加－減少）は、当会調査では－60.0であった。前年同期比では10.0%の悪化となっている。

しんきん経済研究所では－24.5であった。前年同期比では5.7%の改善となっているが、いずれの調査でも利益の減少感は強い。

#### ●資金繰りの動向

資金繰りD I（好転－悪化）は、当会調査では－40.0であった。前年同期比では20.0%の悪化となっている。資金繰りの悪化感が強い。

しんきん経済研究所では－13.2であった。前年同期比では1.9%の改善となっている。

#### ●人手の動向

人手D I（過剰－不足）は、当会調査では－20.0であった。前年同期比では10.0%の悪化となっている。

しんきん経済研究所では－20.8であった。前年同期比では7.6%の悪化となっている。少し人材の不足感がある。

#### ●調査員コメント

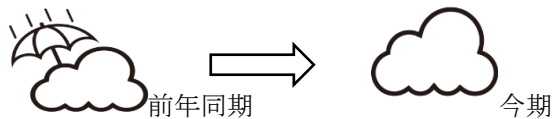
- ・高齢者への臨機応変の対応によって売上拡大を図っている。
- ・通販や大手販売店に押され売り上げが上がらない。
- ・商工会に期待すること

地元を盛り上げてほしい。既存のイベントの様なものでなく、全く新しい、パワーのある。現状の各部会活動を通じた事業の継続。  
地域活性化の旗振り役。

### 【飲食業＋サービス業の状況】

<磐田地区飲食業＋サービス業の景況感>

売上高は前年同期に比べ少し持ち直し、仕入単価は上昇、利益は前年同期に比べ少し持ち直しという状況にあり、やや改善している。



#### ●売上額の動向

売上額D I（増加－減少）は、当会調査では±0.0であった。前年同期比では33.3%の改善となっている。

しんきん経済研究所では-8.3であった。前年同期比では8.3%の悪化となっている。

#### ●仕入単価の動向

仕入単価D I（上昇－下降）は、当会調査では70.0であった。前年同期比では70.0%の悪化となっている。

しんきん経済研究所では25.0であった。前年同期と同一値（25.0）となっている。

当会調査対象企業の仕入単価の上昇感が強い。

#### ●利益の動向

利益D I（増加－減少）は、当会調査では-10.0であった。前年同期比では23.3%の改善となっている。

しんきん経済研究所では±0.0であった。前年同期比では8.3%の改善となっている。

#### ●資金繰りの動向

資金繰りD I（好転－悪化）は、当会調査では±0.0であった。前年同期比では6.7%の改善となっている。

しんきん経済研究所では-8.3であった。前年同期比では8.4%の改善となっている。

#### ●人手の動向

人手D I（過剰－不足）は、当会調査では-20.0であった。前年同期比では6.7%の悪化となっている。

しんきん経済研究所では-25.0であった。前年同期比では8.3%の改善となっている。

両調査ともに、少し人材の不足感がある。

#### ●調査員コメント

- ・仕入単価が上昇しているが、売値に転嫁できていない。（飲食）
- ・癒しの空間を提供出来ている。食材にこだわっている。（飲食）
- ・チラシを継続して配布することにより売上拡大を図っている。（サービス）
- ・地元の食材を活用したコース料理と惣菜の販売で売上拡大を図っている。（飲食）
- ・持続化補助金を受けて店舗を改装し売上増を見込んでいる。（飲食）
- ・商工会に期待すること

補助金など公的施策の情報をもっと伝えてほしい。

地元の食材を活かす取り組みを主導してほしい。

マルケイ制度の利用（低金利と簡単な手続き）

商工会員間の交流を活発化することにより仕事が増えることを望んでいる。

## 【上場企業の業績】

日本経済新聞社の調査によると、上場企業の平成 29 年 3 月期の業績は純利益が前期比 13.6%増になる見通しとなっている。海外需要を取り込んで収益を伸ばし、国内の設備投資にも前向きに動いている。人手不足を転機に企業が生産性を上げ、持続的な賃上げにつながれば、息の長い景気回復になる。但し、今後のリスクとして為替相場と中国経済の動向に注意する必要がある。

静岡県内の上場企業 31 社についても 7 割弱が経常増益となった。平成 30 年 3 月期は 8 割弱が増収、6 割が増益を見込んでいる。